



制作
長野県高等学校文化連盟
新聞専門部

第6号



2018信州総文祭

文学研修・講演・部門別研修

それぞれの活動から文芸を学ぶ

信州総文祭文芸部門プレ大会が8月7・8日に佐久市で開催された。来年の信州総文祭を運営する意識を持つことを目的として、県内の高校生が交流し絆を深めた。1日目は文学研修のリハーサルなどを行った。2日目は小説家の小嶋陽太郎さんから講演を受けた。その後部門別研修のリハーサルを行った。学んだことを生かし、来年の信州総文祭を創り上げる事がこれからの目標となる。(長野高校 渋谷佑果)

部門別研修

明るい雰囲気です部誌作り

部誌部門の部門別研修での内容は、各グループごとに部誌を完成させるといいうものだった。各自で考えて作ってきた部誌の構想を基に編集、構成した。

まずは各グループに分かれ、講師の飯村宏さんの話を聞いてから作業を開始した。コンセプトが決まらなかつたり、グループ内で意見が合わなかつたり、分担作業が上手くいか

ないなど、作業が難航したグループもあった。しかし限られた時間の中でもいい部誌を作る為にグループ全員でこだわりを持って取り組んだ。

飯村さんからは助言をもらいながら表紙や目次の制作、内容の編集をした。それらが完成したグループは印刷



グループごとに部誌を制作

製本を行った。製本出来なかつたグループもあったが、明るく楽しい雰囲気の中で部誌作りができた。来年への課題や評価出来る点など、様々な発見のある良い時間となった。(上田 高校 木内佳奈)

文学研修

信濃町で学び深める

文学研修ではまず一茶記念館に行った。そこでは、小林一茶の生涯のDVDを見たり一茶のふるさとである柏原宿の様子や、一茶顕彰に関する資料などを多く見ることができた。知らなかつた一茶の一面や一茶の俳句で多く使われている言葉などについて知ることができた。

講演

小説家に書き方教わる

長野県で活動する小説家の小嶋陽太郎さんに座談会形式で講演してもらった。講演では、小嶋さんが小説を書き始めた理由や小説の書き方などについて笑いも混ぜながら話してくれた。



(飯田女子高校 佐々木優果)

研修で説明を聞く生徒たち

緊張していた私はちゃんと話せるかな安だったが、聞きたいことを質問でき、楽しく参加できた。

また、次回作は松本が舞台だという話を聞いて、読みたいという気持ちがさらに増した。(松本 榊ヶ崎高校 笹川清夏)



講演を行った小嶋さん(中央)